

第6学年 国語科学習指導案

令和5年10月26日(木) 第3校時

- 1 単元名・教材名 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう
『鳥獣戯画』を読む」「調べた情報の使い方」「日本文化を発信しよう」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童について

※省略

【国語に関する意識調査の結果】

①国語の学習は好きですか。			
好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
②①の質問の主な回答理由			
③国語の学習で好きなことは何ですか。(複数回答)			
④自分の考えを文(作文、新聞、手紙、物語など)で書くときに困ることはありますか。			
⑤④の質問でどんなことで困りますか。			
⑥分からない言葉が出てきたら国語辞典で調べていますか。			
⑦⑥の質問でその他にどんな方法で調べますか。			
⑧書くための材料を整理して文(作文、新聞、手紙、物語など)を書いていますか。			
⑨組み立てや順序を考えて文(作文、新聞、手紙、物語など)を書いていますか。			
⑩その学年で学習したことを使って、書き表し方を工夫していますか。			
⑪書いた文(作文、新聞、手紙、物語、報告書など)を読み返して、よりよくなるように直していますか。			

(2) 教材について

本単元は、『鳥獣戯画』を読む」「調べた情報の使い方」「日本文化を発信しよう」の3つの教材で構成されている。自分の表現に生かすという目的に応じて「鳥獣戯画」という日本文化に関わる筆者のものの見方や考え方、表現の工夫を捉えて読み、それらを活用してグループで一つのパンフレットに書きまとめ

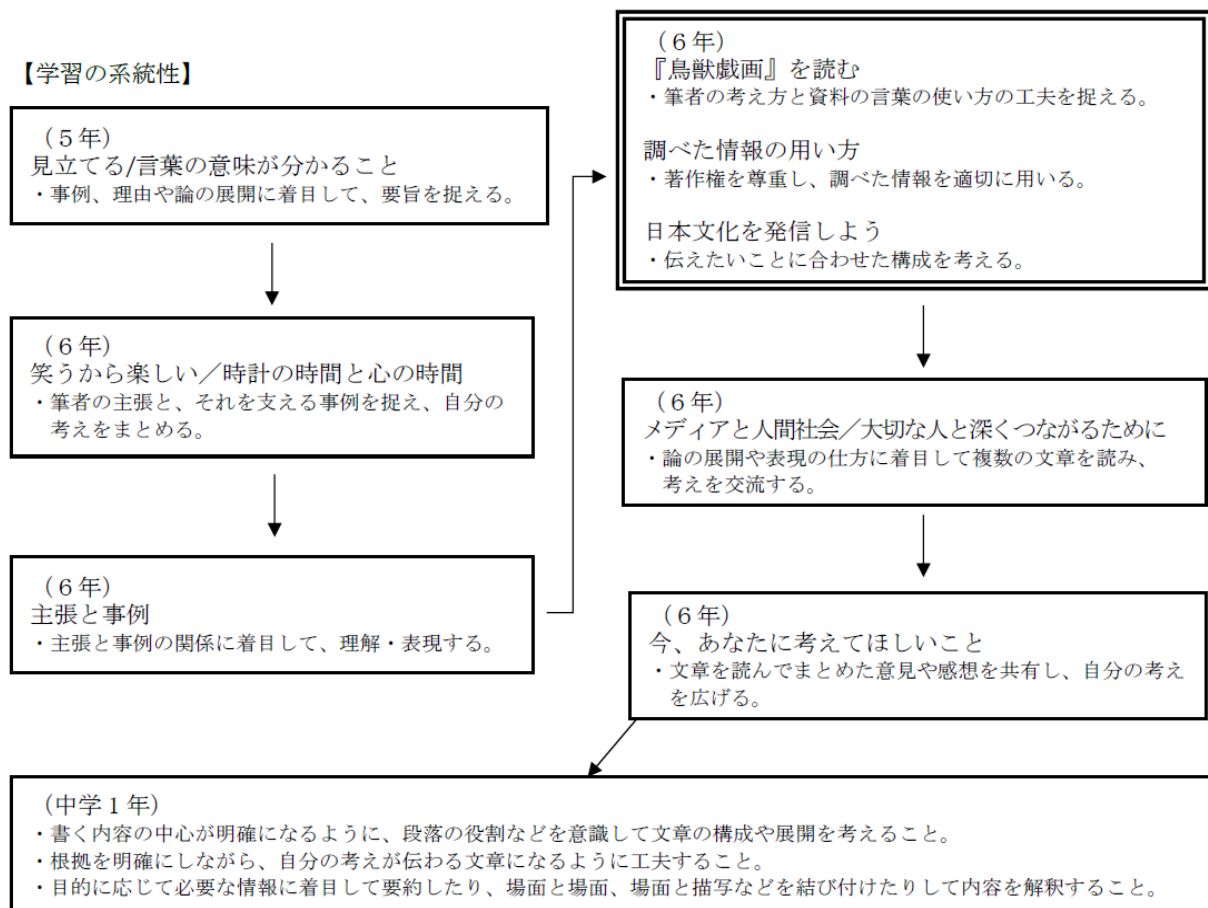
る単元である。

『鳥獣戯画』を読む』は、アニメーション映画監督であり、文筆家である高畑勲氏が、日本漫画文化のルーツといわれる「信貴山縁起絵巻」と「鳥獣人物戯画」のうち、「鳥獣（人物）戯画」についての考えを述べた説明的文章である。

この教材分では最初に「鳥獣戯画」の絵の一部を提示し、絵と読者とを出会わせる。次にマンガやアニメの祖としての「鳥獣戯画」について作品の解説をしている。絵に出てくる蛙のポーズや目と口の描き方、吹き出しのような線から蛙の気合を読み取れること、また転がった兎の表情からこの相撲は遊びであることが読み取れること、つまり筆さばきで心情をも表現していることを述べている。また p. 143 と p. 145 で分けて出した絵を再度つなげて出すことで絵巻物の特徴であるストーリー絵画の時間性を説明している。そして12世紀という昔から「絵の力を使って物語を語るのが日本文化の大きな特色である。」ことについて述べている。最後には筆者の主張である「鳥獣戯画は国宝であるだけではなく、人類の宝なのだ。」ということについて述べている。筆者のものの見方や考え方が分かる教材であり、絵や写真の用い方や評価の仕方を学ぶことができる教材である。

「調べた情報の使い方」では、調べた情報を適切に用いるために、引用の仕方や出典の示し方、著作権を尊重することについて理解を深める内容となっている。

「日本文化を発信しよう」では、「鳥獣戯画を読む」で学習してきたことを、ここで具体的に生かしていく学習過程がとられている。そして日本文化について考えたことや伝えたいことをパンフレットという形で文章にする言語活動が設定されている。そのためパンフレットを作る手順を学ぶことができる教材であるが、絵や写真が中心になったものではなく、「解説文や評価を伝える文」が中心になったものであることを押さえて学習に取り組ませたい。教科書にも「日本文化について調べ、そのよさが読み手に伝わるように構成や絵、写真の見せ方を工夫してはパンフレットにまとめる」と記述がある。教科書ではパンフレットの構成や割り付けの例、下書きの仕方、パンフレットの紙面例などが示されていて、「伝えたいこと」に合わせた表現の方法を学ぶことができる内容となっている。



(3) 指導について

本単元について、小学校学習指導要領解説には、以下のように位置付けられている。

第5学年及び第6学年の内容

〔知識及び技能〕

(3) オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕

B 書くこと

(1) イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

C 読むこと

(1) ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

本単元は、「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書く」を単元のめあてとしている。絵の示し方や論の展開などの「表現の工夫」をまずは捉えて読み、それを活用しながら日本文化について書くという、読む目的とゴールの姿をイメージさせたい。

単元の導入で「鳥獣戯画」の一場面をとりあげて、絵を解説する文章を書かせる。児童にとっては難しいと思われるこの活動を通して、筆者が「鳥獣戯画」の魅力伝えるために本文で何をどのように表現しているのかを考える主体的な学習につなげていく。この『『鳥獣戯画』を読む』の表現の工夫を生かして、日本文化について分かったことや伝えたいことをパンフレットに書きまとめる。学習計画を児童とともに立てて学習に見通しをもたせる。

「とらえる」段階では、筆者の着眼点に注目しながら読んでいくことを意識させる。絵全体の中で、筆者が絵のどのようところに注目しているのかを知ること、筆者のものの見方に気付かせる。また、筆者が絵のどういう点に着目しているのかを整理することで、形、大きさ、色、格好などの着眼点を具体的に読み取らせていく。この学習は取り上げた対象の何に着目して書くかという点でパンフレットづくりに生かすことができる。

「深める」段階では、筆者の「絵」と「絵巻物」の2つの事柄についての評価の仕方について読み取る。「絵」のどこがどのようによいと考えているかの評価が書かれている表現を見つけたり、「絵巻物」についてどのように説明をしてどう評価をしているのかを考えさせたりする。また、「論の展開について」

「表現の工夫について」「絵の示し方について」など筆者が自分の見方を読者に伝えるためにどのような工夫をしているのかをまとめる活動をする。これらは、日本文化を発信するパンフレット作りの自分たちの表現を工夫したり、友達表現のよい点を見付けたりすることにも繋がると考えられる。

「まとめる」段階では、一人一人が発信する日本文化を決め、パンフレットの構想を練る。ここでは、パンフレットといっても、絵や写真が中心のものではなく、「解説文や評価を伝える文」が中心になったものであることを確認する。そのため、パンフレットにまとめるのは、住んでいる地域に根差したものや自然教室、修学旅行につながるもの、様々な教科で学習してきたこと、ふだんの習い事など自分自身の体験をもとにし、解説や評価がしやすいものが望ましい。その中から取り上げる内容を児童自身で決めさせる。そしてこれまでの経験や、『『鳥獣戯画』を読む』で学んだ表現の工夫を生かせるようにする。この単元で作るパンフレットは、個人で書いた下書きを個人だけでなく班でも推敲し、より日本文化の魅力伝える文章を目指して清書をする活動を行う。「児童が自分で感じている日本文化の魅力を相手によりよく伝

えるため」に今まで学習してきた工夫を生かすように助言をするが、パンフレットという性質上「鳥獣戯画」で使われた工夫がそのまま全部使えることではないことも押さえたい。また、イラストや写真などを効果的に活用するため、タブレット端末の学習支援アプリ（以下、ロイロノート）を使ってまとめている。班での話し合いや推敲する活動を通し、書き手の思いが読み手により伝わる文章を書けるようにさせる。

「広げる」段階では、友達のパンフレットを読み、互いのパンフレットのよい点、改善できる点を伝え合う。そして、学習を振り返り、伝えたいことを伝えるためにはどのような工夫ができるのかを自分の言葉でまとめさせる。

また、教科横断的な視点から見ると本単元は、1学期に外国語科「We have children's day in May.」で、日本の文化や伝統行事を英語で紹介したことや、社会科の「貴族の暮らし」「今に伝わる室町文化」や「言葉に残る南蛮文化」と関連づけられる。さらに日本文化の一つである俳句や短歌などは国語の学習で他学年でも既習である。また自然教室や修学旅行などの学校行事で福島、鎌倉や箱根の歴史と触れ合ったこととも関連付けられる。パンフレットづくりは「日本文化の魅力をよりよく伝えるため」に行うので児童自身の経験がより重要である。学校でのこと、地域のこと、自分自身の習い事などいろいろな文化を想起させ、「表現を工夫し、日本文化の魅力を発信しよう」を単元のめあてとして、学習を進めていく。

3 研究主題との関わり

<p>研究主題</p> <p>「多様な学びを通して、自己の生活に生かせる資質と能力」の育成 ～書くことで考えを整理し、伝え合うことで学びを深める教育実践を通して～</p> <p>本校が目指す児童像</p> <p>「自分の考えを書き、相互に考えを伝え合い、学びを確かなものにできる児童」</p> <p>高学年段階で育てたい児童像</p> <p>「目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、文章全体の構成や展開を考え、書き表し方を工夫して表現できる児童」</p>

仮説1 ゴール（身につけること）を明確にした単元計画を構成し、ねらいに沿った言語活動を実践すれば、言語能力を高められるであろう。

【仮説1にせまる手立て】

手立て① 教師と一緒に、学習計画を作成することで単元全体の見通しをもった学習活動ができるようにする。

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	単元計画	表現の工夫をこらえて読み、それをいかして書くこと。油の展開や表現の工夫、絵の示しに気づいて読む。日本文化について調べよさがわかるように、表現を工夫して書くこと。
清書をする読み合う	推敲し合う	表現の工夫下書きをする	構成や割りつけを決める	題材を決める	本やインターネットで資料を集め表現の工夫を見つける	パラレルの計画を立てる	大切な表現の工夫を見つける	筆者の考えを知り自分の考えをもつ	筆者の絵の見方を知る	解説文を書く学習計画を立てる	みんなが出したシート
		下書き	下書き	調べる本 イロハネ	決める	大切な言葉	筆者の見方考え	表現の工夫			

手立て② 各時間における言語活動を充実させることで、学習のねらいに迫る。

〈言語活動（具体例）〉

時	主な言語活動
第1時	・『鳥獣戯画』を読むの1枚の絵の解説文を書く活動。 視点に沿った初発の感想を書き、学習計画を考える活動。
第2時 ～第4時	・『鳥獣戯画』を読むを読み、根拠や観点を明確にして、筆者の主張や表現の工夫などを考えたり、話し合ったりする活動。

第5時～ 第6時	<ul style="list-style-type: none"> 「調べた情報の使い方」を読み、分かったことや考えたことを話し合う活動。 学校図書館や地域の図書館などを利用したり、複数の本やインターネットを活用したりして日本文化について情報収集・情報交換する活動。
第7時～ 第10時 第10時が本時	<ul style="list-style-type: none"> 発信したい日本文化について詳しく調べ、必要な情報を取捨選択してまとめる活動。 伝えたいことに合わせた構成や表現を考えて、パンフレットを作る活動。
第11時	<ul style="list-style-type: none"> 友達が作成したパンフレットを読み、分かったことや考えたことを話し合う活動。

手立て③ タブレット端末の「ロイロノート」を活用して、思考の整理や作成物の修正に取り組ませることで、児童が考えたり話し合ったりする活動を効率的・効果的に進める。

手立て④ 「話し方名人」や「蒲生南小の伝え合いの約束」を活用することで、スムーズに話し合いを進めるとともに、話す内容が深められるような言語活動の下支えにする。



蒲生南小の伝え合いの約束 (高学年)

- 【伝える】自分の考えを伝える
(「アトリー」グループ・全機に向けて)
 本気で行うこと
 ・自分の書いたものを見せ、聞きながら自分の考えを分かりやすく説明する。
 ・質問する人は「なぜ?」と聞き、説明する。
 ・グループの全員が伝える。
 ・途中でなくてもよい。(できたところまで)
 ・聞かないところは聞かせる。(ここが聞かれません。)
- 【比べる】友だちの意見を聞いて、自分の考えと比べる
 本気で行うこと
 ・物に自分の考えと友達との考えの共通点や相違点を探す。
 ・質問する人は「なぜ?」と聞き、説明する。
 ・「どうして～はいいの?」と聞いて、意見を述べたり、
- 【深める】伝え合いを通して聞いたことをもとに、自分の考えを深める
(自分の考えを再考する)
 本気で行うこと
 ・話し合ってから考えたことを書く。
 ・友達との考えの共通点や相違点から、自分が新たに気付いたことや大事だと思ったことを書く。

仮説2 児童の実態(つまずき)を把握し、個々に応じた具体的な手立てを明確にして授業実践すれば、基礎基本的な学習内容を定着できるであろう。

【仮説2にせまる手立て】

手立て① 教師がゴールとなるパンフレット(モデル文)を実際に作成して必要な学習内容や情報を把握する。また、児童に提示するパンフレットは2種類用意する。1つは表現の工夫や評価を入れずに作ったもの、もう1つは表現の工夫や評価を入れたものである。下書きをして、推敲する際にこの2つを提示することで児童自身が表現の工夫を入れる必要感を目で見て確認できるようにする。そして、日本文化の魅力を発信するための言葉や表現の工夫、写真や見出しの使い方、割り付けなどを考えることができる資料とする。

モデル文(2種類)

手立て② 想定する児童のつまずきに応じた手立てを下記のように明確にする。

(予想されるつまずきとその手立て)

- 文章を読み取ることができない。
 - 個人やペアでの音読を授業の中で取り入れ、理解が進むようにする。家庭学習でも取り組ませる。
 - 意味の分からない言葉はすぐに辞書を引くことができるように手元に辞書を用意しておく。また毎時間、最初の5分を帯活動として辞書による意味調べを行う。国語科に限らず意味が分からない言葉が出てきたときには自主的に意味調べが行えるよう生活化をねらって通年で行う。
- パンフレットを作成する際に、どこに何を書けばいいのかわからなかったり、割り付けを考えたりすることができない。
 - 割り付けプリントを用意して、文を書く位置や写真を貼る位置を明確にする。

- これまでの学習した内容を忘れてしまい、授業で活用することができない。
→これまでの学習内容を教室内に掲示をして振り返りやすくし、学習のつながりを意識させる。

割り付けプリント→



4 単元の目標

- 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。
〈知識及び技能〉(3) オ
- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉B (1) イ
- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉B (1) エ
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C (1) ウ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元で取り上げる言語活動

- 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
(関連：〈思考力、判断力、表現力等〉B (2) ア)
- 学校図書館や地域の図書館などを利用し、複数の本を活用して調べた情報を知らせるパンフレットを作る活動。
(関連：〈思考力、判断力、表現力等〉C (2) ウ)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。 (3) オ	① 「書くこと」において、「日本文化を発信しよう」において筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。B (1) イ ② 「書くこと」において、「日本文化を発信しよう」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。B (1) エ ③ 「読むこと」において、『鳥獣戯画』を読む」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。C (1) ウ	① 粘り強く、文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりして、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。

7 指導と評価の計画 (全11時間)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「鳥獣戯画」の1枚の絵の解説文を書く。 ○『鳥獣戯画』を読む」の全文を読み、日本文化について調べて分かったことをパンフレットにまとめる学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○解説文の記述の仕方 ○初発の感想の書き方 ○単元の概要把握 ○学習の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のゴールである「表現の工夫を活かしながら日本文化について書く」ことの難しさ、必要性を感じさせる。 ○日本文化の魅力を発信するために、『鳥獣戯画』を読む」の表現の工夫をいかすことを確認させる。 ○国語や社会、行事など様々な学習で、日本の文化や伝統行事に触れてきたことを振り返らせる。 ○並行読書に取り組みさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 <評価方法> <u>ノート・観察</u> ・「鳥獣戯画」について関心をもち、学習の見通しをもって日本文化を発信する学習に取り組もうとしているか確認する。</p> </div>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○絵と文章を照らし合わせながら筆者が「鳥獣戯画」をどう読んでいるかを明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者の着眼点 (赤線) ○筆者の評価 (青線) 	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者の着眼点と絵を照らし合わせて線で結ぶ。 ○筆者の評価が表れているところに線を引く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現③】 <評価方法> <u>ノート・観察</u> ・筆者が絵の描き方や絵巻物についてどんな感じ方や評価をしているかを読み取っているか確認する。</p> </div>
3	<ul style="list-style-type: none"> ○前時で線を引いた部分話し合い、筆者の評価に対して自分の考えや感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○着眼点 (赤線) ○筆者の評価 (青線) 	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者の着眼点に赤線、評価に青線を引いたことを確認させ、筆者の評価に対して自分の考えをまとめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能①】 <評価方法> <u>ノート・観察</u> ・読書に親しみ、読書によって、ものの見方や考え方を広げているかを振り返りで確認する。</p> </div>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者の「論の展開」「文末表現の工夫」「絵の示し方の工夫」について気付いたことを書きだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現の工夫や効果 <ul style="list-style-type: none"> ・問いかけ ・呼びかけ ・体言止め ・言い切り など 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現⑥】 <評価方法> <u>ノート・観察</u> ・文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けているかを確認する。</p> </div>
5	<ul style="list-style-type: none"> ○「調べた情報の使い方」を読み、著作権への理解を深め、分かったことや考えたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引用の仕方 ○出典の示し方 ○著作権の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○引用や出典などの既習事項は簡単に確認させる。 ○著作権についてタブレット端末の「ネットモラル事例集」を視聴したことを思い出させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 <評価方法> <u>ノート・観察</u> ・文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもち、日本文化に関する複数の本を選んで読むようとしているかを確認する。</p> </div>
6	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館で日本文化についての本を探し、表現の工夫に着目して読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本文化を伝える本の内容構成 ○表現の工夫 ○相手意識 ○目的意識 	<ul style="list-style-type: none"> ○『鳥獣戯画』を読む」で学習した筆者の工夫と関連付けて考えられるように視点を確認する。

7	○日本文化を発信するパンフレットの題材を決め、構想を練る。	○パンフレットの題材決めと構想 ○題材例 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・衣（振袖、袴、浴衣 等） ・食（和食、日本茶 等） ・住（畳 ふすま 障子 和室 等） ・遊び（お手玉、折り紙 等） ・日本画（浮世絵、水墨画 等） ・芸術（茶道、書道 等） ・楽器（箏、三味線、和太鼓 等） ・武道（空手、柔道 等） ・習い事から（野球 武道等） ・行事から（鎌倉、箱根 等） ・地域の行事から（南越谷阿波踊り 越谷花火 等） ・自身の経験から（夏休み 冬休み 旅行 親戚の家の地域 等） </div>	○テーマは、今まで学習した日本文化に限らず、自分自身の経験や習い事、地域の行事など様々なものから選んで、決めさせる。
8	○伝えたいことに合わせた調べ学習を行い、パンフレットの構成や割り付け、表現の方法を考える。	○情報収集の仕方 ○本やインターネットで見付けた表現の工夫 ○相手意識 ○目的意識	○ゴールをイメージしやすくするために、教科書の例を提示する。 ○パンフレットの形式にとらわれずに、解説文や評価を伝える文が中心であることを押さえる。 ○本やインターネットを活用して、効果的な絵や図の使い方を考えさせる。 ○読み手を意識させる。
9	○構成や割り付けを決め、下書きをする。	○パンフレットの構成と割り付け ・リード文 ・見出し ・小見出し ・資料（絵や写真）の確認 ○表現の工夫	○日本文化の魅力を伝えるために、理由や事例を挙げて説明させる。 ○タブレット端末（ロイロノート）を活用して下書きをさせる。終わったら教員に画像を送らせる。 ○下書きをする際に気を付けるポイントを確認する。 ○割り付けプリントを用意することで、文を書く位置や写真を貼る位置を明確にさせる。 ○推敲をする際に気を付けるポイントを確認する。 ○教員が作成したパンフレットのモデル文を2つ提示し「どこ」を「どのように」直すことでよい文になるのかを視覚的にとらえやすくする。 ○ロイロノートを使い、下書きと比較しながら直せるところを直させる。 ○友達の文章を読み、よいところを見つけ、さらによくするようにアドバイスをさせる。
⑩	○伝えたいことに合わせた表現の方法を考え、下書きを推敲する。	○日本文化の解説と魅力を伝える文または文章 ○相手意識 ○目的意識 ○推敲の観点	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 <評価方法> <u>ノート・観察</u> ・伝えたいことを明確にし、効果的に伝わるよう、紙面構成を考え、文章全体の筋道が通っているか確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現②】 <評価方法> <u>ノート・観察</u> ・引用したり、絵や写真などと文章との組み合わせを考えたりして、伝えたいことが伝わるように書き表し方を工夫しているか確認する。</p> </div>

			<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 <評価方法> <u>ノート・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化について関心をもち、構成や表現を工夫して書き表すことに粘り強く取り組み、見通しをもってパンフレットを作ろうとしているか確認する。
11	<ul style="list-style-type: none"> ○推敲した下書きをもとに、パンフレットを完成させる。 ○お互いに読み合い、分かったことや考えたことを話し合う。 ○単元の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書き手の思い ○相手意識 ○目的意識 ○交流の視点 ○感想を伝え合う方法 ○単元の振り返りの視点 	<ul style="list-style-type: none"> ○各自のパンフレットを読んで、工夫されていると感じたことを伝えさせる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 <評価方法> <u>ノート・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、これから日本文化に関わる本を読んだり絵や写真などを用いた文章を書いたりするときに生かしていこうとしているか確認する。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットを保護者に読んでもらい、感想をもらう。 ・全てのパンフレットを印刷したものを学年の廊下に掲示して学習参観日に保護者に読んでもらう。 		

※本時の学びを生かした教科横断的な学習として、以下のように計画している。

日時・教科	学習活動等
11月 総合的な 学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○「輝く未来へ」の学習における発表会に向けて、発表資料を作成する際に国語科で学習した内容（割り付け・表現の工夫など）を活用して作成できるようにする。 ○「輝く未来へ」の学習における発表会で、作成した資料を活用する。

8 本時の学習活動（本時10 / 11時）

(1) 目標

○日本文化の魅力が伝わるように文章全体の構成や表現を工夫して、推敲することができる。

〈思考力・判断力・表現力等〉 B (1) オ

(2) 評価規準

○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	○指導上の留意点・評価 ★仮説に迫る手立て	時間
1 帯活動「新出漢字の学習・辞書を引く活動」を行う。	○新出漢字・語句の理解 ○辞書の引き方	○言語能力を高めるため、毎授業時導入前に、年間を通して継続的に取りませる。 ○漢字スキルに載っている意味が分かりにくい言葉を提示し、辞書を引かせる。 ○調べた言葉のページに付せんを貼らせる。	5
2 前時までの振り返りをする。	○前時の学習の想起 ・下書きの仕方 ・割り付けの仕方	仮説2 手立て (教室掲示) ★これまでの学習内容を教室内に掲示をして振り返りやすくし、学習のつながりを意識させる。 ○本時では、下書きを見直すこと、友達の下書きのよいところを見付けたり、アドバイス合ったりすることを伝える。 ○児童から出た言葉を生かしてめあてを設定する。	2
3 本時のめあてを把握する。	推こうして、伝えたい日本文化のみりよくがより伝わるようにしよう		2
4 推敲する観点の確認をする。	○推敲する観点 ・文章を資料(図表やグラフ)などと結び付けて書いているか ・文章の構成を工夫しているか(伝えたいものは大きく上方に) ・評価の言葉(ほめる言葉)を使っているか。 ・表現の工夫を使っているか ・詳しい解説文が入っているか	仮説1 手立て② ★教員が作成したパンフレットのモデル文を提示し、児童が推敲の仕方などを具体的に捉えて取り組むことができるようにする。 ○今後の活動でしっかりと意識させるために、全体で共通理解させる。	3
5 下書きを推敲する。 ・個人で推敲する。 ・ロイロノートに書く。 ↓ ・内容や表現を検討して手直しをする。	○推敲の仕方 ○推敲の手順	仮説1 手立て③ ★推敲する時間を効果的に行うためにタブレット端末を使用して学習を進める。 ○ロイロノートを使って、下書きを見ながら、改善した方がよいと思う表現を直させる。 ○ロイロノートに送られている友達の下書きを見て、自分が真似したい表現や書き方を探してもよいことを説明する。	1 4
6 友達の推敲したパンフレットを見てグループで話し合う。	○意見交流の仕方	○自分がどこを検討したのか、どこの表現の仕方がよいと思ったのか伝えさせる。 ○友達の発表を聞くときには自分の画面と相手の画面を比較しながら、話し合わせる。	8

<p>7 グループでの交流をもとにもう一度推敲する。 ・ロイロノートに書く。</p> <p>8 全体で共有する。</p>	<p>○交流をもとにした加筆修正の仕方</p> <p>○推敲した場所の確認</p>	<p>仮説1 <u>手立て</u>⑤</p> <p>★「話し方名人」や「蒲生南小の伝え合いの約束」を活用することで、効果的な話し合い活動を進められるようにする。</p> <p>○推敲を受けて、表現の仕方を考え直すのか、友達のよかったところを参考にするのか、そのままにするのかなど、自分が書いた下書きを整えさせる。</p> <p>○書き方がよくなった児童の作品を数名紹介して、文章の書き方や表現の仕方がよくなっていることを確認する。</p>	<p>5</p> <p>3</p>
<p>〈期待される児童の発表〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○と言い方より△△という言いの方が魅力が伝わると思って変えました。 ・○○さんの～という表現がよかったので、真似して～と書き直しました。 ・○○という言葉をつけ足したほうがより詳しく分かるので○○という言葉をつけたしました。 		<p><評価規準></p> <p>【思考・判断・表現④】</p> <p><評価方法></p> <p><u>ノート記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 [ロイロノート] <p><「努力を要する」状況 (C) への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の書いた文章で、いいと思ったところを参考にして書くように助言する。 	<p>3</p>
<p>9 本時の振り返りをする。 ・ノートに書く。</p>	<p>○振り返りの視点</p>	<p>○今日の授業でできたことや、考えたことを書かせる。</p> <p>○次時を意識した内容や、今日の学習から自分たちの生活につなげられることもあれば書かせる。</p>	<p>3</p>
<p>〈期待される児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推こうのやり方が分かった。 ・友達の作品を見て直し方が分かった。 ・推こうすると文章がよくなった。 ・○○さんの書き方がよかったので取り入れていこうと思った。 			

9 板書計画

（おまかせ） **ふいふい**

か 学習を通して分かった！できるよになつた！

も もっと知りたい！こんな場面で活かしたい！

な 友達の～～がよかった！分かりやすかった！

ん んー？と疑問に思った！

⑤ 推こうすると、日本文化のみりよくがより伝わるようになった。

① 一人で推こうしよう。

② グループで推こうしよう。

③ もう一度推こうしよう。

④ 全員で確かめよう。

教師作成の
モデル文
(2種類)

◎ 推こうのポイント

- ・ 文と写真は合っているか。
- ・ 構成を工夫しているか。
- ・ 評価（ほめる）言葉を使っているか。
- ・ 表現の工夫を使っているか。
- ・ くわしい解説が入っているか。

⑧ 推こうして、伝えたい日本文化のみりよくがより伝わるようにしよう

十月二十六日（木）
日本文化を発信しよう

10 単元構想 (全11時間) ※複合単元

事前
 国語科や他教科で学習したものや自分自身の習い事や学校の行事、地域の行事など「日本の伝統文化」について想起させ、日本文化の魅力を発信したいという思いをもたせる。
 国語科…短歌・俳句・書写 社会科…「貴族のくらし」「今に伝わる室町文化」「言葉に残る南蛮文化」
 外国語科…「We have Children's Day in May.」 道徳科…「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」
 学校行事～自然教室・修学旅行(福島・鎌倉・箱根) 地域行事…お祭り 越谷阿波踊り 越谷花火
 習い事～武道、野球、そろばん

出会う (一時間)

「表現の工夫を捉え、日本文化の魅力を発信しよう」の学習計画を立てよう①

「鳥獣戯画」の1枚の絵を見て解説文を書く。その後全文を読んで感じたことを話し合い、日本文化の魅力が伝わるパンフレットで発信するための学習課題を設定し、学習計画を立てる。①

解説文を書くのが難しかった。

日本文化の魅力が伝わるパンフレットを早く作りたい。

どのように書けばよいパンフレットができるのかを知りたい。

追及・表現する (九時間)

「鳥獣戯画」を読む」の表現の工夫を捉えて読み、そこで学んだ工夫を活用して日本文化の魅力をパンフレットにまとめよう。②～⑩

【読むこと】

「『鳥獣戯画』を読む」
 絵と文章を照らし合わせながら筆者の見方を明らかにする。②
 ※着眼点と評価

「『鳥獣戯画』を読む」
 筆者の見方を読み取り筆者の評価に対して自分の考えをまとめる。③
 ※着眼点と評価
 ※自分の評価

「『鳥獣戯画』を読む」
 筆者の「論の展開」「文末表現の工夫」「絵の示し方の工夫」について読み取る。④

・筆者は「鳥獣戯画」を高く評価していることが分かるな。

・筆者は、全体を見たり、部分を見たりしていた。

・アニメや漫画を例に出して分かりやすく説明していた。
 ・文末表現を工夫していた。
 ・いろいろな言葉を使って絵を評価していた。

【調べた情報の用い方】
 日本文化についての本から、必要な情報を見つけ、表現の工夫に着目して読む。⑤
 ※引用の仕方 ※出典の示し方 ※著作権

・著作権はネットモラルで学習したね。
 ・出典もしっかり書こう。
 ・引用の仕方を守ろう。

【書くこと】

「日本文化を発信しよう」
 学校図書館で日本文化についての本を探し、表現の工夫に着目して読む。⑥
 ※読書

「日本文化を発信しよう」
 パンフレットの題材を決め、構成を練る。⑦
 ※題材の決定
 ※パンフレットの構成

「日本文化を発信しよう」
 「『鳥獣戯画を読む』での学習を基に、パンフレットを作る。⑧⑨⑩
 ※構成・割り付け・表現の工夫⑧
 ※下書き⑨
 ※推敲⑩

・自分の発信したい文化の本はあるかな。

・見出しは大きく書こう。
 ・写真を入れて分かりやすくしよう。

・表現の工夫をしよう。
 ・くわしい説明を入れよう。
 ・友達の見聞を聞きたい。

並行読書

生かす (一時間)

パンフレットを読み合っ、工夫されているところを伝え合おう。⑪

完成したパンフレットを読み合っ、「『鳥獣戯画』を読む」で学習したことがどう生かされているかを伝え合う。⑪

・日本文化についての詳しい説明が入っていて分かりやすかった。

・評価(ほめる)言葉が入っていて魅力が伝わった。

・写真と文があっ、説明がより分かりやすいものになっていた。

事後
 他教科(社会や理科の新聞づくりなど)において、学んだことを生かしていくようにさせる。

学習活動 主な活動 児童の思い